

平成26年12月 南魚沼市議会定例会
一般質問順位表

| 質問順位 | 議席番号 | 質問者 |
|------|------|------|
| 1 | 16 | 寺口友彦 |
| 2 | 6 | 佐藤剛 |
| 3 | 25 | 樋口和人 |
| 4 | 18 | 岡村雅夫 |
| 5 | 9 | 笛木晶 |
| 6 | 15 | 中沢一博 |
| 7 | 10 | 林茂男 |
| 8 | 22 | 牧野晶 |
| 9 | 3 | 田村眞一 |
| 10 | 14 | 黒滝松男 |
| 11 | 5 | 勝又貞夫 |
| 12 | 4 | 清塚武敏 |
| 13 | 7 | 桑原圭美 |
| 14 | 1 | 永井拓三 |
| 15 | 17 | 中沢俊一 |
| 16 | 26 | 若井達男 |
| 17 | 12 | 塩谷寿雄 |
| 18 | 2 | 塩川裕紀 |
| 計 | | 18名 |

【質問方式】（いずれも質問制限時間（答弁時間を含まない。）は30分）

一括質問一括答弁方式： 全質問項目を一括して行い、答弁も一括して行う。
（初回は登壇して行い、質問回数は3回まで。）

一問一答方式： 質問及び答弁を一問ずつ行う。（ただし初回の質問は、登壇して最初の質問項目のみをまとめて行う。質問回数に制限なし）

複合型一問一答方式： 一問一答方式において、質問大項目の最初の質問はまとめて行い、以降は一問ずつ行う。

| 質問 順位 | 質 問 内 容 |
|------------------------------|--|
| 2 | <p>1 高齢者福祉と介護関連事業について</p> |
| 議 席 | <p>(1) 地域包括ケアシステム構築に向けた介護保険事業の取組</p> |
| 6 | <p>①第5期介護保険事業計画の取組課題とした事項の解決と次期計画への反映</p> |
| 佐 藤 | <p>②医療と介護の連携を今後の課題としているが、その対応は。 ③地域包括ケアシステムの必要性の認識は。また、構築に向けての策定方針はできているのか。</p> <p>(2) 新たな高齢者福祉計画での高齢者の日常生活</p> <p>①高齢者の社会参加及び日常生活の「足」確保のために市民バス優遇措置等の考えは。 ②高齢者の住環境整備はどう進めるのか。</p> |
| 剛 | <p>2 魚沼地域医療再編、移行方針について</p> <p>県立六日町病院閉院から南魚沼市民病院開院までの期間、暫定的に開院する予定の「市立六日町病院」の運営について、以下の5点を問う。</p> <p>(1) 市立六日町病院は、南魚沼市が主体となって運営する。基幹病院、県病院局も一定の支援を行うことになっているが、支援の内容は。 (2) 医師体制は確保されているのか。 (3) 診療科目は限られるが、特にこの地域の「外科」患者はどうなるのか。 (4) 透析医療はどうなるのか。 (5) 移行までの期間は短いですが、移行準備の体制はどうするのか。</p> |
| (一 問 一 答 方 式) | <p>3 戦略的な総合計画を</p> <p>(1) 総合計画は機能しているのか。 (2) 市民はこれからの「行政(施策)」に何を望んでいるのか。 (3) 市民が「この地に生まれてよかった。これからもずっと住み続けたい」と思うまちづくりのための戦略的な総合計画を。 (4) そのための「基本構想」「基本計画」「実施計画」をどう進めるのか。</p> |

| 質問 順位 | 質 問 内 容 |
|--|---|
| 3 | <p style="text-align: center;">人事評価と事業評価について</p> <p>当市では人事評価と事業評価を導入していると思うが、それぞれどういったものなのか。導入したことによって、どのような効果があり、行政の執行にどのように生かしているのか伺う。</p> |
| 議席 | |
| 25 | |
| <p style="text-align: center;">樋 口 和 人</p> <p style="text-align: center;">（一括質問一括答弁方式）</p> | |

| 質問 順位 | 質問内容 |
|--|--|
| 5 | <p style="text-align: center;">人口減少に対応したシティプロモーションを</p> <p>まちの魅力や地域資源を掘りおこし、外に向けてアピールすることで、南魚沼市の知名度の向上や情報交流人口の拡大、定住人口の獲得、交流人口の増加につながる。このように、地域に住む一人ひとりが愛着心を持ち、地域そのものを全国に売り込むことをシティプロモーションといい、全国でも注目されている。</p> <p>シティプロモーションの活用について、調査・研究をする意志があるのか所見を伺う。</p> |
| 議席 | |
| 9 | |
| <p style="text-align: center;">笛 木 晶</p> <p style="text-align: center;">（一問一答方式）</p> | |

| 質問 順位 | 質 問 内 容 |
|----------------------------------|---|
| 6 | <p>1 南魚沼市の経済対策について</p> |
| 議席 | |
| 15 | |
| 中 沢 一 博 (一問一答方式) | <p>バブル経済が崩壊してから現在まで続く長期不況の元凶は、物価が下がり続けるデフレである。デフレ脱却を進めるため、政府は経済対策を進め景気回復の勢いはつくり出してきたが、地方はまだ実感がない。景気回復のカギを握るのは、GDPの約6割を占める個人消費の拡大である。</p> <p>そこで、当市の景気回復の具体策を伺う。</p> <p>(1) 当市の景気回復の現状は、どう把握しているのか。</p> <p>(2) 地元商店街で使えるプレミアム商品券の発行支援について</p> <p>(3) 住宅市場の活性化へ、住宅エコポイント制度の考えは。</p> |
| | <p>2 地域で支え合う共生社会について</p> <p>福祉社会の在り方をめぐる議論は、新たな局面を迎えている。年金や医療、介護など社会保障制度の骨格を持続可能なものにするとともに、人口減少問題への対応が大きな課題になってきている。もう一度原点に立ち返って、福祉社会の在り方を考える時に来た。</p> <p>支え合う地域づくりへ、小さな拠点を各地に整備した魅力あるコミュニティーを形成するため、更なるモデル地域の考え方について伺う。</p> |

| 質問 順位 | 質問内容 |
|------------------|---|
| 9 | 1 安心できる介護保険制度の確立のために |
| 議席 | |
| 3 | |
| 田 村 眞 一 | <p>介護保険法が2000年に施行されてから14年が経過した。その間、介護・医療保険の大幅な制度改定が行なわれた。制度開始当初よりも介護保険の適用範囲が狭まり、利用者への負担が増える傾向である。高齢化率が年々高まる中で、厚生労働省は施設よりも在宅介護重視の方針を出した。しかし「この豪雪地で24時間包括ケアをやれるのか」など難題が山積している。国が責任を果たす事を強く求めつつ、南魚沼市がこの分野でも最後の砦、防波堤の役割を果たすことが求められる。以下市長の見解を伺う。</p> <p>(1) 介護保険開始から14年間の在宅介護の状況と変化（世帯構成や介護力等）について見解を伺う。</p> <p>(2) 中山間地ほど施設へのニーズは高い。施設を増やす方向こそが抜本的対策と考えるが見解を伺う。</p> <p>(3) 「特養は最後のセーフティネット」という位置付けについて見解を伺う。</p> <p>(4) 二次予防事業の現状の問題と対策について見解を伺う。</p> <p>(5) マンパワーの増強、介護職員の人員不足の解消について見解を伺う。</p> <p>(6) 市民と行政とのパイプ役である民生委員の現状と、量と質の向上への対策について見解を伺う。</p> |
| (一問一答方式) | <p>2 この地域で商売を続けていこうという希望が持てる制度実現に向けて</p> <p>(1) 買い物に支障をきたしている方々の現状把握と対策について伺う。</p> <p>(2) 設備投資が継続できず廃業するケースなどの把握と対策について伺う。</p> <p>(3) 各商工会等とも連携し、生の声を聞く市内全事業所訪問をおこなう必要があると考えるが見解は。</p> |

| 質問 順位 | 質 問 内 容 |
|-------------------------------------|---|
| 10 | <p>1 人口減・少子化対策について</p> |
| 議席 | |
| 14 | <p>政府は人口減少に歯止めをかけるため、合計特殊出生率を「目指すべき水準」として、1.8 を目標に定めた。これを受け、20 道府県でそれぞれ出生率・出生数の目標が公表された。</p> |
| 黒 滝 松 男 (複合型一問一答方式) | <p>(1) 市として出生率・出生数の目標を示し、具体的な取組を進めるべきでは。</p> <p>(2) 人口減少問題プロジェクトチームの今後の取組について</p> |
| | <p>2 2015年産米の作付について</p> <p>農水省は2015年産の主食用米の生産数量目標を751万トンとする基本方針を示した。</p> <p>毎年需要が8万トン程度減少していることに加え、豊作により2014年産米の生産量が目標より6万トン増えたことで、14万トンの削減とした。</p> <p>(1) 毎年割り当てが減少する中、2015年産の作付は。</p> <p>(2) 独自販売に向けた販売促進費予算の増額を。</p> |

| 質問 順位 | 質問内容 |
|----------------------------------|---|
| 11 | <p>1 市民サービスの拡充について問う</p> |
| 議席 | <p>行政は最少の経費で最大の効果を上げるのが基本であるとされているが、これについて市の姿勢とその考え方を問う。市民サービスの拡充の可能性と限界についての基本的な考え方は。</p> |
| 5 | |
| 勝 又 貞 夫 (一問一答方式) | <p>2 使用済み核燃料の危険性とその認識について問う。</p> |
| | <p>柏崎刈羽原子力発電所は現在稼働していないが、使用済み核燃料はそこに置かれたままである。この状態の危険性について南魚沼市はどのように認識しているのか。</p> |
| | <p>3 学力向上について基本的考え方を問う。</p> <p>「人は究極の資源である」という言葉がある。「教育はひとつの技術である」とも言われるが、これについての基本的な考え方を問う。教育の可能性は無限で、魚沼教育は日本一にもなれる可能性があると思うが、市の教育現場ではこの点についてどのように考えているのか。</p> |

| 質問 順位 | 質問内容 |
|--|--|
| 13 | <p style="text-align: center;">抜本的な教育政策で子ども達の教育の向上を</p> <p>義務教育は全国平等に機会が与えられるべきであるが、生まれた自治体で小中9年間をどう過ごすかは、子ども達にとって大きな格差をもたらすと考える。</p> <p>教育基本法、学校教育法の改正に伴い、公立の小中一貫教育が脚光を浴びるようになってきた。法改正にとらわれずとも、教育改革は重要な課題であり、子ども達の成長を行政と地域が一体となって支えていく事は、非常に大きなテーマだと思う。</p> <p>人口減少の進む中、南魚沼市が公立小中学校の教育を特色あるものにして、将来の地域の発展につなげられるような、思い切った政策を望みたいと思うが、市の将来的な方向性を問う。</p> |
| 議席 | |
| 7 | |
| <p style="text-align: center;">桑 原 圭 美</p> <p style="text-align: center;">（一問一答方式）</p> | |

| 質問 順位 | 質問 内 容 |
|--------------------------|---|
| 14 | 1 ハザードマップのあり方について |
| 議席 | |
| 1 | <p>現在、南魚沼市では新たなハザードマップ作成にあたり、多くの調査を行っている。ハザードマップとは本来、地域防災力の向上に貢献するための材料の一部であり、それが防災政策の全てではない。あくまで、防災政策全体の一部であることを忘れてはならない。つまり、全体の地域防災力の向上こそが、今、求められていることである。</p> |
| 永 井 拓 | <p>現在、作成中の新たなハザードマップについて「行動指南力」「情報取得態度」「コミュニケーションの動機付け」「災害イメージの固定化」などの要素は、どれほどの精度で取り入れられているのか。また、住民と行政の問題意識の共有化がハザードマップでどれだけ図れるかなどを考慮して、本質を捉えたハザードマップの作成を行うべきだが、いかがか。</p> |
| 三 | 2 義務教育期間内の防災教育について |
| (一 問 一 答 方式) | <p>防災政策の中で「自助」という言葉をよく耳にするが、いったい「自助」とはどのようなことなのか。自らの危険を回避するための行動や知識をどのようにして体得するのか。特に、自らの判断能力が成人に対して劣る青少年たちは、いざ自分の範疇を超えた災害（事件・事故を含む）を乗り切るための術をどこで得ることができるのか。当然、家庭での教育は重要である。同時に、青少年が多く時間を過ごす学校で、それを行うことの重要性を今一度確認してほしい。</p> <p>防災教育とは訓練の集大成であり、命を守らなければならない方が一の時に、訓練で得た知識や経験をしっかりと発揮できるようにすることが教育上重要な要素になる。</p> <p>したがって、「市民の命と財産を守る」ということが行政の使命であるならば、災害時に自らの判断で行動できる手段を身につけてもらうことも重要な教育である。そのような意味合いで、市が行っている「防災教育」の実績と成果について伺う。</p> |

| 質問 順位 | 質 問 内 容 |
|----------------------------------|--|
| 15 | 「プラチナタウン」事業化には市の主体性を明確に |
| 議席 | |
| 17 | |
| 中 沢 俊 一 (一問一答方式) | <p>複数の新聞報道や、先の衆議院議員総選挙演説等でいわゆる「プラチナタウン構想（CCRC）」が、南魚沼市独自の取組として紹介される中、ようやく市民の間でも、この事業の関心が高まってきた。活動的で経済的にも余力のある「プラチナ世代」は、どの自治体にとっても魅力的であり、他の自治体との激しい争奪戦も予想される。そのような中、南魚沼市ならではの主体性を持った具体策が急がれる。</p> <p>以下の4点について、今後の取組方針を伺う。</p> <p>(1) 事業化に向けての今後の工程及び想定する規模について三菱総研、国との関係を具体的に伺う。</p> <p>(2) 「特任チーム」創設への考えについて 人数、年代、官、学、民のバランス等考えがあれば</p> <p>(3) ICLOVEとの連動・相互補完について 連動させる事による大きな相乗効果への期待</p> <p>(4) 高齢者の「活動期」及び「終末期」の尊厳確保策について</p> |

| 質問 順位 | 質 問 内 容 |
|--|---|
| 16 | <p style="text-align: center;">明日の南魚沼市の農業を問う</p> <p>(1) 農政改革及び農協改革について</p> <p>(2) TPP（環太平洋経済連携協定）参加について</p> <p>(3) 米価安定対策はいかに。</p> <p>(4) より一層の南魚沼産コシヒカリの販売促進を。</p> |
| 議席 | |
| 26 | |
| <p>若 井 達 男</p> <p>（一括質問一括答弁方式）</p> | |

| 質問 順位 | 質 問 内 容 |
|--|--|
| 18 | <p style="text-align: center;">浦佐駅構内の空きスペース活用について</p> <p>六日町駅前には市立図書館があるが、浦佐駅付近には待合学習スペースが無い。JRと交渉して、浦佐駅構内の空きスペースを有効活用すべきと思うが、市長の考えを伺う。</p> |
| 議席 | |
| 2 | |
| <p style="text-align: center;">塩 川 裕 紀</p> <p style="text-align: center;">（一括質問一括答弁方式）</p> | |